

C-66 長着のえり付けについて (オ2報)——えり肩明きの強さ——
すみれ女短大 阪本弘子

目的 和服の裁ち方で切欠けをつくる唯一の箇所は、えり肩明きである。この切欠けを布地の上から考察すると、縫製過程中及び縫製後の衣類整理の立場から、弱い点となり、縫製時の布のほつれ、引裂き破れの現象を誘発する。今回は縫製後のものでなく、原点に立つて裁ち切ったままの、一枚のえり肩明きの強さについて検討した。

方法 えり肩明きの形は、日本家政学会オ26回総会において発表した作図法によるもので、背中心より直線部分を、 $\frac{2}{3}$, $\frac{1}{2}$, $\frac{1}{3}$, 繰り越し寸法を、2.0, 2.5, 3.0 cm, とした。試料布はてんじくもめんを用い、たて糸に対して、(1) 0度, (2) 45度, (3) 90度, の三方向で引張り、その破断状態を観察した。破断はすべて切欠け終りから肩山線に向かつて起こった。そこで切欠けより2 cm離れ、縫い込みになる位置に、牛縫いとミシンの二つの方法で、切欠けを中心として、2.0 cmの長さにはステッチをした後、破断について検討した。ステッチに使用する糸についての考察も試みた。

結果 試験の結果次のことが認められた。(1) 繰り越し裁ちはよろしい。2.0, 2.5 cm, が適当である。(2) 補強ステッチは効果がある。ステッチの針目は、5針/cm, が、3針/cm, より強い。ミシンステッチは牛縫い半返しより強い。(3) 斜地方向に引張った布地は弱く、90度方向は最も弱い。これは切欠けをつくった布地の取り扱いに、注意しなければならないことである。